

# 絵本の読み方で聞き手の受け取り方は変わるのか — 幼児を対象に、抑揚に注目して —

## The Ways in Which and Extent to Which Listeners' Reactions Change with How Picture Books Are Read: Focusing on Infants and Young Children

(2018年3月31日受理)

西 菜見子      國田 祥子      井上 亜弥\*  
Namiko Nishi      Shoko Kunita      Aya Inoue

Key words : 読み聞かせ, 絵本, 抑揚, 幼児, 想像力

### 要 約

本研究の目的は、幼児を対象とした読み聞かせにおいて、抑揚をつけて読んだ場合と抑揚をつけずに読んだ場合での幼児の反応の違いを比較・検討することであった。また、ストーリー性のある絵本とストーリー性のない絵本では抑揚の効果に違いがあるのかも併せて検討した。対象は、A市内の保育園に通う4歳児クラス2クラスであり、調査はクラス単位で行った。調査者自身が直接読み聞かせを行い、その様子をビデオカメラで記録した。ストーリー性なし条件では「もこもこ」を、ストーリー性あり条件では「おおきなかぶ」を読み聞かせに使用した。富田・佐々木・青悦(1995)の分析方法を参考に、対象児の絵本の読み取り反応を「ことば」、「動作・行為」、「表情」の3カテゴリー25項目に分類し、対象児ごとに、各項目の頻度を1回につき1点としてカウントした。その後、ストーリー性の有無および抑揚の有無に基づき、項目得点およびカテゴリー得点の平均得点を算出した。その結果、ストーリー性なし条件では、抑揚あり群の方が抑揚なし群よりも「表情」による反応が有意に多くなっていた。具体的に差が見られた項目は「微笑む(smile)」と「笑う( laugh)」であった。一方、ストーリー性あり条件では、いずれのカテゴリーも抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。以上の結果から、ストーリー性がない絵本においては、抑揚あり群の方が幼児の反応が多く、抑揚が効果的であることが示唆された。

### 問題と目的

#### 1. 問題

絵本を読む際には、どのようなことを意識して読むだろうか。例えば、聞き手が絵本を楽しめるように、ストーリーに合わせて声色を変えることはないだろうか。また、絵本の内容を問いかけてみたりすることもあるのではないだろうか。状況や子どもに培って欲しい力を意識して、読み聞かせ方法を変えることもあるだろう。例えば、食事の前や昼寝の前は、子どもたちが落ち着くことができるように優しい声色で読むという話や、子どもの想像力を育てるため、抑揚をつけずに淡々と読み聞か

せるという話を聞いたことがある。では、そうした状況やねらいに基づいた読み聞かせ方法の違いは、聞き手にどのような影響を与えているのだろうか。

また、状況やねらいが異なれば、読み聞かせる絵本の種類も異なることが考えられる。そうした絵本の種類の違いも、読み聞かせ方法に影響を及ぼすのではないだろうか。例えば、なぞなぞ絵本や図鑑絵本は問いかけを意識して読み聞かせを行うことが多いだろう。また言葉のリズムを楽しむような乳児向けの絵本では、イントネーションやリズムを意識した読み方をする人が多いのではないだろうか。では、こうした絵本の種類の違いによって、読み聞かせ方法の影響は異なるのだろうか。

\*福山市立川口保育所保育士

## 2. 読み聞かせ方法による幼児の反応の違い

読み聞かせ方法による幼児の反応の違いについての研究に、富田・佐々木・青悦(1995)がある。富田ら(1995)は、4歳児20名を対象に、1冊の絵本がごく普通に読み手に与えられ、幼児たちの前で読み聞かせられる場合と、絵本について十分討論したうえで読み聞かせられる場合とでは、幼児の反応がどう変化するかを検討した。

調査では、まず対象となった4歳児20名をAグループ6名、Bグループ7名、Cグループ7名に分けた。Aグループには保育者Aが、Bグループには保育者Bが、Cグループには保育者Cが読み聞かせを行った。まず第1回目の読み聞かせとして、3名の保育者に、事前に手渡してあった同一の絵本を読み聞かせてもらった。その後、その絵本の内容について保育者同士で十分に討論したうえで、同じ対象児に2回目の読み聞かせを行ってもらった。読み聞かせの様子はビデオカメラで記録し、対象児の絵本の読み取り反応を分析した。その結果、1回目の読み聞かせよりも2回目の読み聞かせの方が、すなわち、絵本について十分討論したうえで読み聞かせられる場合のほうが、対象児の反応数が有意に多いことが示されたと、富田ら(1995)は述べている。

しかし、この研究では、何が幼児の反応を変化させたのかについては、明確に検討されていない。

## 3. 読み聞かせにおける抑揚の効果

一方、絵本の読み聞かせにおける抑揚の効果に着目した研究として、藤原(2011)がある。藤原(2011)は岡山市内の小学校2年生62名(男子30名、女子32名)、4年生68名(男子36名、女子32名)、6年生65名(男子33名、女子32名)を対象に、抑揚をつけて読んだ場合と抑揚をつけずに読んだ場合とで、絵本の読み取りの解釈に違いがでるかを検討した。

調査は、1クラスずつ調査者自身が直接読み聞かせを行い、その後、アンケートを実施するという手続きで行われた。読み聞かせには絵本「おおきな木」が用いられた。また、読み聞かせは各学年2クラスを対象に、一方のクラスでは抑揚をつけ、一方のクラスでは抑揚をつけずに行った。その後、物語の登場人物の“木”と“男の子”に焦点を当て、彼らが幸せだったと思うか、不幸せであったと思うかについて5段階評価で回答を求め、さ

らに評価の理由について自由記述で回答を求めた。その結果、抑揚の有無によって読み取りに明確な違いは見られなかった。

しかし、藤原(2011)で対象としているのは、日常的に読み聞かせが行われているわけではない小学生であった。日常的に読み聞かせが行われている幼児であれば、異なる結果が得られる可能性があるのではないだろうか。

## 4. 絵本の種類による違い

また一般的に、幼児の想像力を育てるためには、抑揚をつけずに淡々と読み聞かせた方が良いと言われていいる。しかし、物語絵本ではそうであったとしても、絵本の種類によってはそう言い切れないこともあるのではないだろうか。例えば、前述したような言葉のリズムを楽しむ絵本では、イントネーションやリズムを意識することが効果的な場合もあるのではないだろうか。すなわち、ストーリー性の有無によって、抑揚の効果は異なるのではないだろうか。

## 5. 本研究の目的

そこで本研究では、幼児を対象とした読み聞かせにおいて、抑揚をつけて読んだ場合と抑揚をつけずに読んだ場合での幼児の反応の違いを比較・検討することを目的とする。更に、ストーリー性のある絵本とストーリー性のない絵本では抑揚の効果に違いがあるのかも併せて検討していく。一般的に言われていることを踏まえると、ストーリー性のある絵本においては、抑揚をつけずに読んだ方が幼児の想像力を刺激し、より豊かな反応を引き出すことができるのではないかと考えられる。一方で、ストーリー性のない絵本については、むしろ抑揚を強調することで豊かな反応を引き出すことが出来るのではないだろうか。

# 方 法

## 1. 調査対象児と調査期間

A市内の保育園に通う4歳児クラス、Aクラス28名(男児16名、女児12名)、Bクラス30名(男児17名、女児13名)の計58名を対象とした。平均年齢は4歳9ヵ月、年齢範囲

は4歳3ヵ月から5歳2ヵ月であった。

調査期間は、2016年6月14日から6月17日であった。初めの2日間は1日ずつクラスに入り、ラポールの形成に努めた。その後、6月16日と6月17日の2日間に分けて調査を行った。

## 2. 刺激

ストーリー性のない絵本としては、谷川俊太郎作／元永定正絵の「もこもこもこ」(文研出版)を使用した。「もこもこもこ」は、オノマトペを主体とした絵本であり、ストーリー性がなく言葉の音やリズムを楽しめる代表的な絵本である。またストーリー性のある絵本としては、A・トルストイ再話／内田莉莎子訳／佐藤忠良画の「おおきなかぶ」(福音館書店)を使用した。「おおきなかぶ」もまた、3歳以上の幼児を対象とした代表的な物語絵本である。

## 3. 手続き

調査はクラス単位で行った。朝の活動の時間に、調査者自身が直接読み聞かせを行い、その様子をビデオカメラに録画した。

Table1に示した通り、6月16日に「もこもこもこ」の読み聞かせを、Aクラスでは抑揚をつけ、Bクラスでは抑揚をつけずに行った。その翌日の6月17日に「おおきなかぶ」の読み聞かせを、Aクラスでは抑揚をつけず、Bクラスでは抑揚をつけて行った。「もこもこもこ」を読み聞かせる条件をストーリー性なし条件、「おおきなかぶ」を読み聞かせる条件をストーリー性あり条件とした。また、抑揚をつけたクラスを抑揚あり群、抑揚をつけなかったクラスを抑揚なし群とした。

読み聞かせは幼児が日常的に使用している保育室で行い、ビデオは幼児の様子を記録出来る位置に設置した。また、読み聞かせはあくまで声の抑揚を反映させるものとし、読み聞かせを行う際の表情はどちらも極力同様になるようにした。藤原(2011)は、明鏡国語辞典の定義を踏まえ、抑揚をつける際には文章の調子を上げたり下げたりすることに注目し、読み聞かせを行ったと述べている。本研究では藤原(2011)のこの手続きを踏まえ、抑揚をつける際は、イントネーションを上げたり下げたりすることを意識した。また、抑揚をつけない場合には一定

の音で読むことを意識した。

Table1. 調査の流れ

	Aクラス	Bクラス
6月16日 「もこもこもこ」	抑揚あり	抑揚なし
6月17日 「おおきなかぶ」	抑揚なし	抑揚あり

## 結 果

### 1. 分析方法

富田ら(1995)の分析方法を参考に、対象児の絵本の読み取り反応を「ことば」「動作・行為」「表情」の3カテゴリー、計25項目に分類した。具体的な項目をTable2に示す。

Table2. 観察の観点

カテゴリー	項目
ことば	1. 反復
	2. わからないことばについての質問
	3. 状況についての質問
	4. 絵についての質問
	5. 絵本に話しかける
	6. 気付いたことを指摘する
	7. 感想・解釈
	8. 予測
	9. 自分の知識・経験・日常生活に関する発言
	10. 自分の意見
	11. その他(ことば)
動作・行為	12. 指さし
	13. ストーリーや絵を身体で表現する
	14. 前に出る・身を乗り出す
	15. 立ち上がる
	16. ずっこける
	17. 声をあげる
	18. 保育者を見る
	19. 友達を見る
	20. その他(動作)
表情	21. 微笑む(smile)
	22. 笑う(laugh)
	23. 悲しげな表情
	24. 驚いた表情
	25. 絵本に注視・集中する

対象児ごとに、各項目の頻度を1回につき1点として合計し、項目得点を算出した。その後、項目得点を「ことば」「動作・行為」「表情」のカテゴリーごとに合計し、カテゴリー得点を算出した。さらに、ストーリー性の有無および抑揚の有無に基づき、項目得点およびカテゴリー得点の平均得点を算出した。

なお、当日欠席していた幼児および、途中から参加した幼児や1分以上表情の分析が不可能だった幼児は、分析の対象から除外した。読み聞かせの所要時間は、それぞれストーリー性なし条件の抑揚あり群が2分43秒、抑揚なし群が2分37秒、ストーリー性あり条件の抑揚あり群が4分26秒、抑揚なし群が4分22秒であった。

## 2. ストーリー性なし条件

### (1) カテゴリー得点

ストーリー性なし条件の分析対象児は、抑揚あり群がAクラスの25名(男児13名, 女児12名, 平均年齢4歳9ヶ月), 抑揚なし群がBクラスの29名(男児16名, 女児13名,

平均年齢4歳8ヶ月)であった。このうち、途中から参加した幼児や1分以上表情の分析が不可能だった抑揚あり群の4名(男児2名, 女児2名)と抑揚なし群の7名(男児6名, 女児1名)を分析の対象から除外した。

ストーリー性なし条件における各カテゴリーの平均得点をFigure1に示す。抑揚あり群となし群の差についてt検定を行った結果、抑揚あり群の方が抑揚なし群よりも「表情」による反応が有意に多くなっていた( $t(41) = 2.686, p < .05$ )。「ことば」および「動作・行為」には差が見られなかった。

### (2) 項目得点

次に、項目得点の差について検討した。なお、抑揚あり群、抑揚なし群ともに反応が見られなかった項目については、グラフに表示しないこととした。

ストーリー性なし条件における「ことば」カテゴリーの平均項目得点をFigure2に示す。t検定を行った結果、いずれの項目も抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

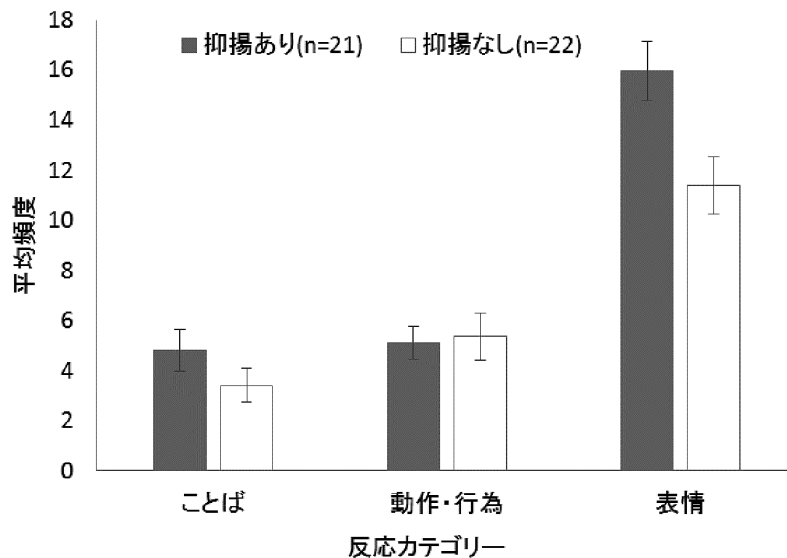


Figure1. 各カテゴリーの平均頻度 (ストーリー性なし条件)

※エラーバーは標準誤差を示す

絵本の読み方で聞き手の受け取り方は変わるのか

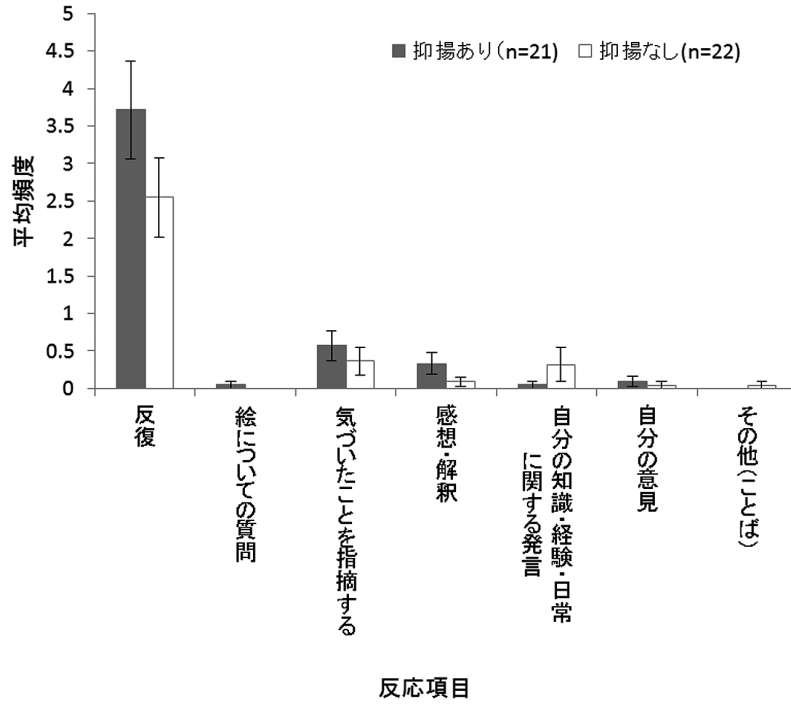


Figure2. 「ことば」 カテゴリー項目の平均頻度（ストーリー性なし条件）  
 ※エラーバーは標準誤差を示す

ストーリー性なし条件における「動作・行為」カテゴリーの平均項目得点をFigure3に示す。t検定を行った結果、

いずれの項目も抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

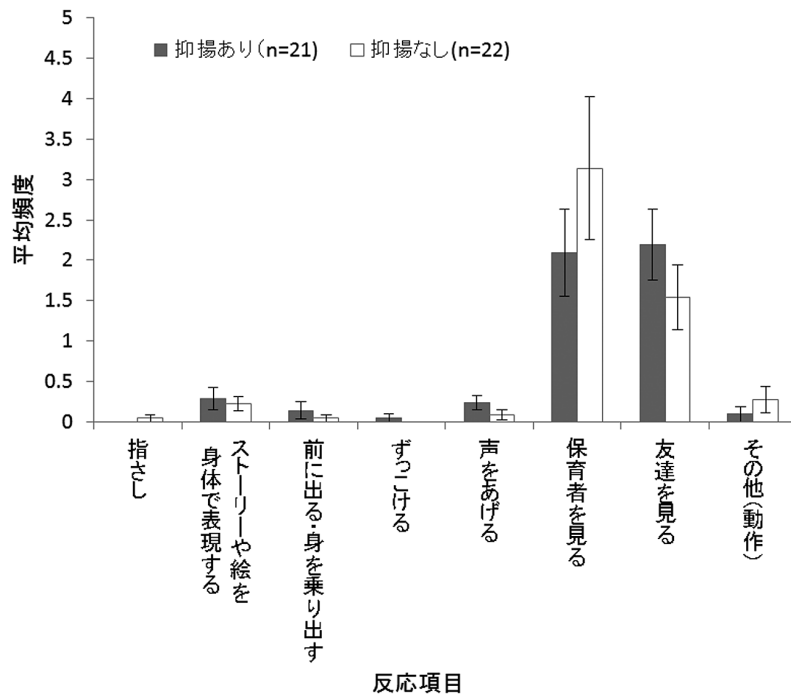


Figure3. 「動作・行為」 カテゴリー項目の平均頻度（ストーリー性なし条件）  
 ※エラーバーは標準誤差を示す

ストーリーなし条件における「表情」カテゴリーの平均項目得点をFigure4に示す。 $t$ 検定を行った結果、抑揚あり群の方が抑揚なし群よりも「微笑む(smile)」と「笑う(laugh)」の頻度が有意に高くなっていた( $t(41) = 2.409, p < .05, t(41) = 3.110, p < .01$ )。

### 3. ストーリー性あり条件

#### (1) カテゴリー得点

ストーリー性あり条件の分析対象児は、抑揚あり群がBクラスの30名(男児17名, 女児13名, 平均年齢4歳8ヶ月),

抑揚なし群がAクラスの27名(男児16名, 女児11名, 平均年齢4歳10ヶ月)であった。このうち、1分以上表情の分析が不可能だった抑揚あり群の7名(男児3名, 女児4名)と抑揚なし群の1名(男児1名)を分析の対象から除外した。

ストーリー性あり条件における各カテゴリーの平均得点をFigure5に示す。抑揚あり群となし群の差について $t$ 検定を行った結果、いずれのカテゴリーにおいても抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

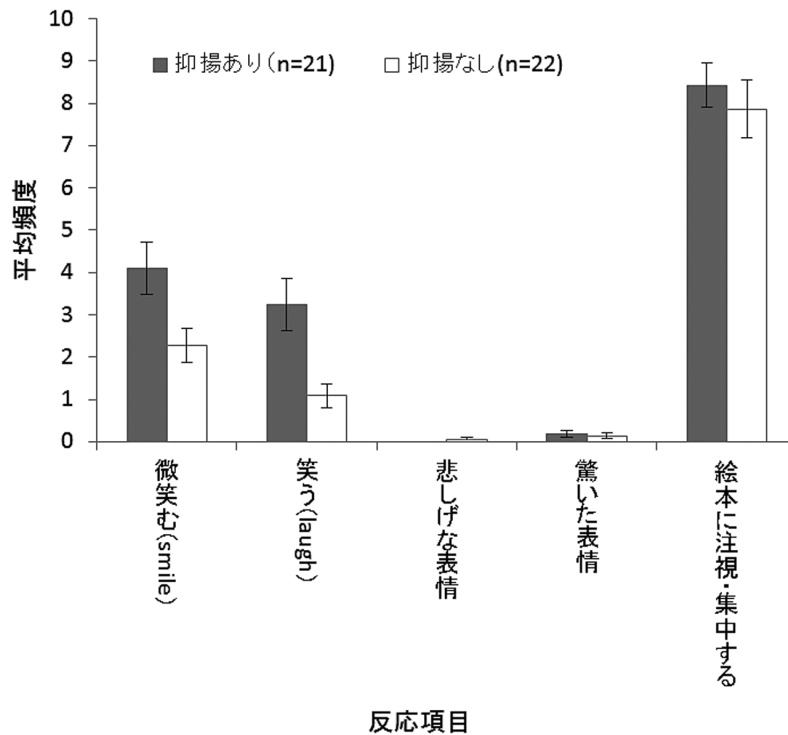


Figure4. 「表情」カテゴリー項目の平均頻度 (ストーリー性なし条件)

※エラーバーは標準誤差を示す

絵本の読み方で聞き手の受け取り方は変わるのか

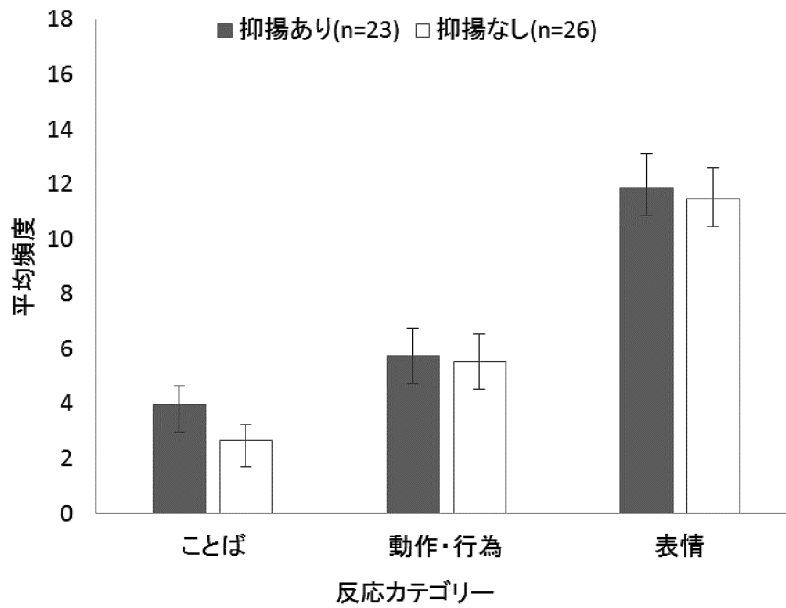


Figure5. 各カテゴリの平均頻度（ストーリー性あり条件）  
※エラーバーは標準誤差を示す

(2) 項目得点

ストーリーあり条件における「ことば」カテゴリの平均項目得点をFigure6に示す。t検定を行った結果、い

ずれの項目も抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

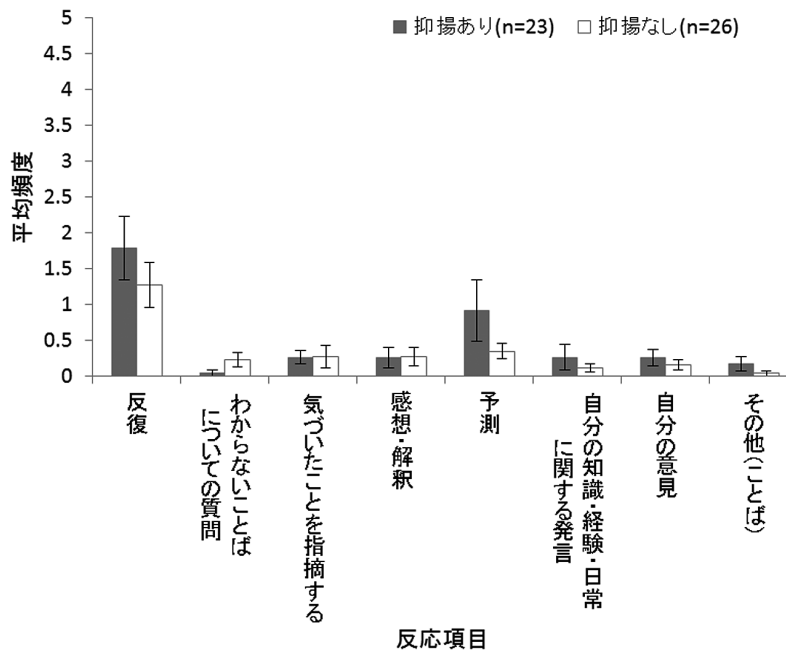


Figure6. 「ことば」カテゴリ項目の平均頻度（ストーリー性あり条件）  
※エラーバーは標準誤差を示す

ストーリーあり条件における「動作・行為」カテゴリーの平均項目得点をFigure7に示す。t検定を行った結果、いずれの項目も抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

ストーリーあり条件における「表情」カテゴリーの平均項目得点をFigure8に示す。t検定を行った結果、いずれの項目も抑揚あり群と抑揚なし群の間に差は見られなかった。

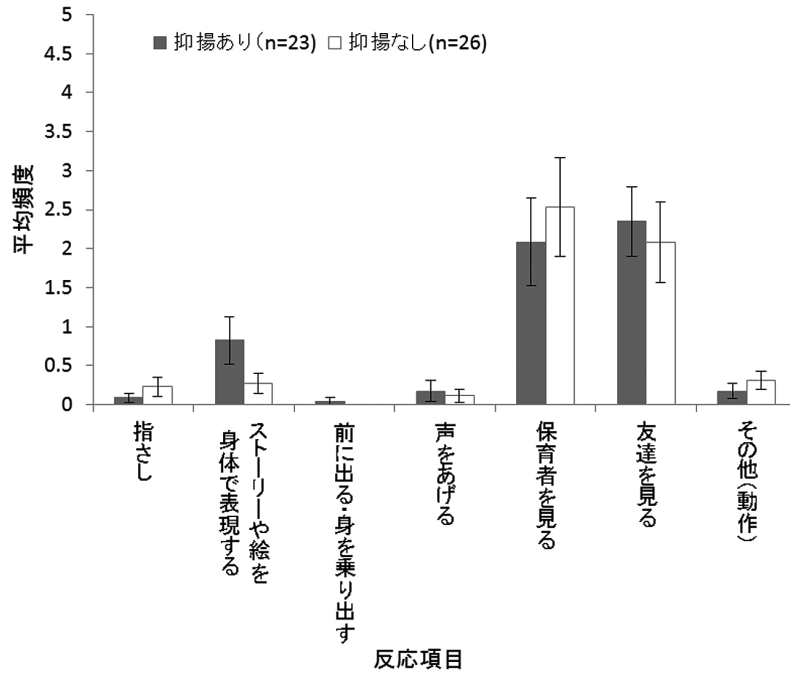


Figure7. 「動作・行為」カテゴリー項目の平均頻度（ストーリー性あり条件）  
※エラーバーは標準誤差を示す

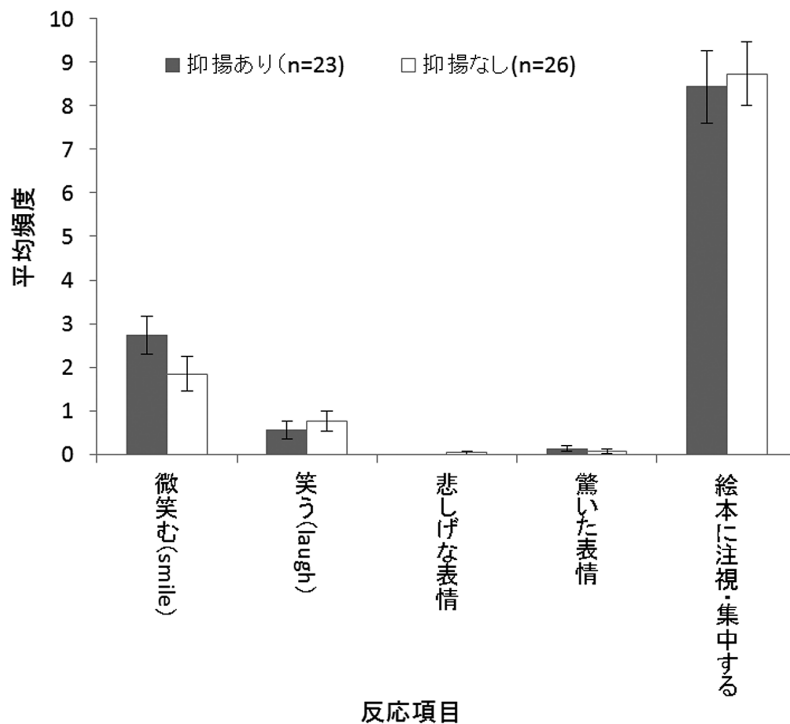


Figure8. 「表情」カテゴリー項目の平均頻度（ストーリー性あり条件）  
※エラーバーは標準誤差を示す



## 考 察

本研究では、ストーリー性のある絵本においては抑揚を抑えて読み聞かせを行うことで、ストーリー性のない絵本についてはむしろ抑揚を強調することで、より幼児の想像力を刺激し、豊かな反応を引き出すことが出来ると予測し、観察を行った。

### 1. ストーリー性のない絵本

ストーリー性のない絵本では、抑揚をつけて読むことで幼児の表情における反応が増加した。項目別に結果を見たところ、抑揚をつけて読んだ方が抑揚をつけずに読むよりも「微笑む(smile)」と「笑う(laugh)」の回数が有意に多かった。ストーリー性のない絵本を抑揚をつけずに読まれると、幼児は意味のわからない単語を淡々と聞くだけになってしまうのではないだろうか。しかし、抑揚をつけることによって、同じ単語が言葉の音やリズムを楽しむことができるものとなり、微笑みや笑いが増えたと考えられる。また、今回は集団で読み聞かせを行ったが、周りの友達が笑っているとそれにつられて笑いがおこるという様子が多く観察された。そうした状況によって、その差がより顕著になったのではないだろうか。以上のことから、ストーリー性のない絵本において、抑揚は幼児の豊かな反応を引き出すために有効であることが示唆された。

### 2. ストーリー性のある絵本

一方、ストーリー性のある絵本では、抑揚をつけて読んでも幼児の反応は増加しなかったが、減少することもなかった。従来、幼児の想像力を育てるためには、抑揚をつけずに淡々と読み聞かせた方が良いといわれている。しかし、抑揚をつけても反応は減少しなかったことから、抑揚は必ずしも幼児の想像力に悪影響を及ぼすと言えないのではないだろうか。

### 3. 結論

ストーリー性がない絵本の読み聞かせでは、抑揚をつけた方が「表情」による反応が多かった。項目別に結果を見たところ、幼児は抑揚がある方が微笑んだり、笑ったりする反応が多く見られた。このことから、ストーリー性がない絵本においては、予測の通り、抑揚をつけた読

み聞かせが有効であることが示唆された。

一方、ストーリー性がある絵本の読み聞かせでは、予測と異なり、抑揚による差は見られなかった。従来、抑揚をつけることは読み手の持つイメージを聞き手に押しつけることになるため、想像を抑制すると考えられてきた。実際、抑揚あり群において、「うたがおもしろくないよ」や「普通の声で読んでや」といった幼児の発言が聞かれることもあった。これは、幼児にとってのうたのイメージや登場人物の声のイメージと、読み手のイメージとの食い違いを示すものと考えられる。しかし時には、読み手のイメージと聞き手のイメージが合致することもあるのではないだろうか。そうした場合には、抑揚はむしろ想像を促進する可能性もあるだろう。そのため、抑揚による幼児の反応の違いが見られなかったのではないだろうか。

以上のことから、抑揚は必ずしも幼児の想像力の発達に悪影響を及ぼすとは言えないことが示唆された。ことばのリズムを楽しむ際などには、むしろ効果的な場合も多いと考えられる。そうであるなら、一律に抑揚をつけないよう心がけるよりも、読み聞かせの目的に応じて有効に利用することを考えても良いのではないだろうか。ただし、上述したように抑揚が幼児の自由なイメージを抑制することがないとは言えない。幼児の持つイメージに配慮し、慎重に判断することが必要である。

### 4. 今後の課題

今回の研究は、抑揚の有無が想像力に及ぼす影響を検討することを目的として行った。しかし本研究では、幼児の読み聞かせに対する行動を観察し、そこで見られた反応を、幼児の想像力を測る尺度として使用しており、直接的に想像力を測るような何らかの尺度を用いて検討を行ったわけではない。そのため、抑揚の有無が幼児の想像力に及ぼす影響を明確に示せたとはいえない可能性がある。今後は、イメージ形成量を測るなどしてより直接的に幼児の想像力を測定し、今回得られた結果が、実際に抑揚が想像力に及ぼす影響を示すものであったのかを検討する必要があるだろう。

## 謝 辞

本研究にご協力していただきました保育園の園長先生をはじめ、諸先生方、お忙しい中誠にありがとうございました。最後となりましたが、ご協力いただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

## 引 用 文 献

- 藤原靖子(2011). 読み聞かせの仕方と聞き手側の分析  
～小学2・4・6年生を対象に～ 中国学園大学子ども学部卒業論文 (未公刊).
- 富田喜代子・佐々木宏子・青悦美代(1995). 絵本の読みきかせにおける読み方の研究(2): 子どもの読みとり反応を中心に 日本保育学会大会研究論文集, 48, 376-377.